

第44回 日南市美術展 審査員講評

【絵画・デザイン部門講評 ＊ ^{とくまる}徳丸 ^{あきら}晃】

今回、日南市美術展の審査をさせて頂きとても光栄に存じます。どの作品も作家の情熱や感性を感じとることができました。しかしながら、作品数が少ないのはとても残念です。今回、この作品展に出品されている方や関係者の方が一丸となって出品者を増やしていただき日南市美術展をもっと盛り上げていただきたいと思います。それから作品創作にあたりましては、今さらでしょうが何故そのモチーフなのか、その為どの構図が良いのかなど徹底的にエスキースを描いて吟味していただきたいと思います。

どうぞ、これからもご自身を信じてそして何よりも楽しんでたくさんの作品を生み出していただきたいと思います。

◇特選・日南市長賞 『 礼文島（北海道） 』 荒木 英子

特選の荒木さんの作品は北海道の雄大な自然をのびやかなタッチで気持ちよく描かれ堂々と表現された作品です。

◇特選・日南市議会議長賞 『 秋まだ遠き新緑の関 』 富山 芳守

特選の富山さんの作品は独自の表現方法と丁寧な仕事が作品づくりに真摯に向き合っており取り組んでおられる想いが伝わってきます。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 静物 』 住田 尚子

住田さんの作品は、しっかりとした構図、バランスのとれた色調で好感度の高い作品です。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 干し大根 』 千葉

千葉さんの作品は絵画のアカデミックな考えを一旦白紙に戻し素直に描きたいものを平面的に表現された純粹に楽しめる作品になりました。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 秋の溪谷 』 福崎 義隆

福崎さんの作品は難しい紅葉と水の表現をたくみに描かれ構図もしっかりとしており秋を感じさせる秀作となりました。

◇新人賞 『 秋の味覚 』 田中 光江

田中さんの作品は、単純な構図ですが、反対に強く印象付ける堂々とした作品であり色調感もすばらしい作品となりました。

【書部門講評 ＊ ^{ながとも}長友 ^{みずえ}瑞枝 】

日南は、新任の頃に勤務していた学校の生徒さん達が数十年に亘り毎年同窓会を開いてくれ、ずっと訪れ続けている大好きな町です。人情が厚く、優しく、温かい人柄は山や海に囲まれた風光明媚な日南の地から育まれるものなのでしょう。このたび、日南市美術展で県南の皆様の作品に対峙できることを大変楽しみにしてまいりました。

今回出品された作品は今までの学習の成果を十分発揮し努力の跡が表現されたものが多く、審査しながら嬉しく思いました。この学びを継続してさらに向上されることを期待します。

◇特選・日南市長賞 『 花 』 今田 さおり

全体の構成・小書きまで一貫したリズムで統一され、安定感のある書きぶりで力量を感じます。漢字と仮名のバランス、潤渇の変化等見事に表現できています。

◇特選・日南市議会議長賞 『 高攀龍詩 』 小玉 彩葉

文字の大小、線の細太等留意され、ぐいぐいと力強く運筆された筆力のある作品です。行間の明るさも表現できています。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 和歌三首 』 坂元 優子

難しい横物に挑戦され懸命に取り組まれた様子が伝わる作品です。文字の疎密の効果が生かされ変化のある仕上がりとなっています。落款に工夫がほしいところです。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 朱鶴齡詩 』 和田 郁香

篆書の筆法を理解、習得され明るい作品となっています。整然とした章法と行間の白、字間の白が生き、力強さと爽やかさを感じる仕上がりです。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 呉蘭雪詩 』 河野 莉奈

呉昌碩を基としたリズム感あふれる作品です。藏鋒を生かし、生き生きと書き進むリズムがこの作品の生命感となり、魅力です。

◇新人賞 『 舒位詩 』 比嘉 穂乃花

気力のあふれた力強い線質、一貫したリズム等、練習量が伺える作品です。文字の大小、墨の潤渇等、変化のある表現が成功しました。今後が楽しみです。

【写真部門講評 ＊ ^{ひがしこば}東木場 ^{あきひろ}昭裕 】

昨年に引き続き今年も写真作品の審査と云う大役を受けさせて頂いた。

前回と同様に大変恐縮な気持ちであると同時に、この日を待ち遠しく楽しみにしていた。

全体を見ての印象はスナップ、人物、風景、マクロ、とバラエティーに富んでおり偏りが無い事だろうか。人真似でなくそれぞれの視点で自分の作品として写真を作っているのが感じられて嬉しかった。

その一方で、良い作品に見せたいが為に過度な画像処理を加えて不自然な色であったり画質が荒れたりしている作品が目に着いたのが残念でならない。

撮影の時にイメージをしっかりと持ち、基本に立ち戻って撮影に挑んで欲しい。後付けの写真は作品にならないと肝に命じて頑張ってもらいたい。

◇特選・日南市長賞 『 晩春・朝の輝き 』 諸井 京子

二台の自転車がまるで会話をしているかのようにユーモラスさを感じる。また持ち主は写っていないのだが、自転車が持ち主を表現している所も見逃せない。前ボケで藤の花を入れることで写真に奥行き感が生まれ、その藤が優しい風に揺れ花の色と相まって朝の爽やかさを演出している。

前ボケで入れている中央寄りの藤の花がやや目立ち過ぎたのが惜しまれるところだが、色んな物語を想像させてくれる素敵な作品である。

◇特選・日南市議会議長賞 『 旅の途中 』 隈本 まり子

作品名は作品として重要なウエイトを占めていると思っている。それは作者が写真で表現しようとしているテーマに他ならないからである。この作品名は実に秀でている。雫の一滴一滴が集まって、やがて川となり海へと続く、そんなストーリーが伝わってくる。写っているモノはシンプルだがそれ故に隙の無い画面構成とシャッターを押すタイミングが要となる。

日南市長賞を競い合う程の作品であったことを付け加えたい。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 虚空はるか 』 枡屋 泰知

初見では何を撮ったのかと思ったが、よくよく観ると理解ができた。発想の転換と云うべき作品であろう。この作品名も秀でている。

適切なシャッター速度とモノクロによる表現で瀑水の迫力が一層伝わった。

ともすると間延びしてしまいそうな被写体を正方形と云う画角が適度に緊張感を与えており締りの良い作品に仕上がっている。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 後継者の決意 』 太田 島子

夜に行われた神事が祭りであろうか、子供の表情からは真剣で神妙な面持ちが感じ取れ、特に瞳のキャッチライต์が非常に印象を与える作品だ。肌の質感も良く丁寧に仕上がっている。

暗がりでの撮影であったせいか瞬きのせいか、肝心の瞳へのピントがやや甘いのが惜しまれた。

それでも全体的にややアンダー気味で雰囲気はよく表現できている。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会会長賞 『 出漁 』 谷口 育央

三分割構図、明と暗の量、シャッターのタイミング、お手本のような作品で力量を感じる。

足繫く通い、何度も撮影している秘密の撮影ポイントだろうか。

そこに通ったからといって必ず撮れるものでもなく、でも通わないと撮れない。作品を撮るとはそう云うものだ、この作品が改めて教えてくれたような気がした。

【彫刻・工芸部門 ＊ ^{やぎ}八木 ^{つねのり}常憲】

審査員依頼の話をお聞きした時、二つの事が頭をよぎりました。真摯で厳正な審査の重大さと新たな作品が見れる興味関心や期待の大きさでした。

さて、彫刻と工芸は、立体造形、多様な素材、空間での展示と共通点もありますが、純粹美術である彫刻は、作者の表現意図と、諸々の造形要素が深く関わり造られます。他三部門にない空間の意識が大切になると思います。工芸は、時間を経て取得した、卓越した技術と生活の中で身近にある素材、日常生活の中での機能美が特徴であると思います。

今回の市美展「彫刻・工芸」部門は、昨年に比べ出品点数が減少した様で残念でしたが、陶芸作品を中心に、レベルの高い作品が多かった。しかし飢肥杉を代表とする木材資材の多い地域ですが、木の彫刻・工芸の作品が少ないのは残念でした。手芸については、身近なテーマを楽しく制作されてる様子がうかがえました。

◇特選・日南市議会議長賞 『 鉢と花入れ 』 高村 正明

民芸調の素材な作品でした。接する人を優しく包みこむ様な魅力のある作品でした。

粗目の土、焼き締めによる自然釉とひずみが良い調子を出している。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 小さな器たち 』 甲斐 泰子

日常生活の中で使われる様々な器をそれぞれの機能美に合った造りと色調は作者の器に対するこだわりと意図が強く感じられた。

◇奨励賞・日南市教育長賞 『 窓辺のブーゲンビリア 』 高橋 幸恵

タペストリ作品の中で特に独創性に富んだ作品であった。スタンドグラスの手法で他の色が鮮やかに輝き、本人の制作意図と表現の幅を感じさせた。

◇奨励賞・日南市教育委員会賞 『 花芯 』 石井 幸子

成形の難しい大鉢ですが、きれいなフォルムにまとめられている。また、釉薬も溶解を上手に使い、いい景色になっている。

◇奨励賞・日南市文化芸術協会賞 『 匂うバラ2輪 』 枡屋 努

唯一の木彫作品でした。素材を生かし彫刻の特性である多面性を意識して作られている。細部は緻密に作られていて作者の思いが感じられた。全体像としてのプロポーションをもっと意識してほしい。

◇新人賞 『 日南海岸物語 』 伊藤 のり子

南国宮崎を代表する風景をテーマにして表現されていた。特に黄昏時の空と海のグラディエーションやシルエットの効果が良く考えられている。